北九州2043

第2回 次世代まちづくり構想会議

・2043年に、北九州市はどんな都市でありたいか
・小倉・黒崎の役割や期待されるプロジェクトは何か
・市民・企業が、一緒になってどのようにまちづくりを進めていくか

令和8年11月18日 13:00～15:00





第1回　次世代まちづくり構想会議の振り返り

第1回　次世代まちづくり構想会議の振り返り

第1回次世代まちづくり構想会議は、都市の将来像・北九州らしい勝ち筋に加え、民間投資を動かす条件や小倉・黒崎の起点プロジェクト（主にベニュー・ウォーカブル・クロサキメイト跡）まで議論が進んだ。

01　2043年を見据えた都市の骨格

- 2043年や、その先も見据え、持続可能な都市を構想すべき。
- まちづくりには「安全」「便利」「快適」が大事。本戦略は＋「ワクワク」といった付加価値をつけていくものとの認識。

02　産業・技術を「暮らしの価値」へ

- 職住近接だけでなく、生活の中に技術が入り込む状況を、北九州市の特色にできる。
- 北九州市の強みである新エネルギーや、安価・安定な水資源等を活かし、企業や人の集積に繋げるべき。
- フィジカルAIやGXの実装都市にするなど、他都市とコンセプトの違いを出すことが勝ち筋。

03　民間投資を動かす条件

- 「日本・アジアで最も実証実験がしやすいまち」等の強いインパクトを位置づけ、企業側のメリットをパッケージ化し、市側から売り込むべき。
- 民間投資を呼び込むには、「規制緩和・特区活用」と「税制・財政措置」の2つが実現のカギとなる。

04　市民が関わり続ける都市の魅力

- 市民活動や市民参画の余地がある空間づくりや、協創のプロセスが重要である。
- 若者が社会の変化や課題を身近に感じ、自分なりの疑問を持てる環境をつくるべき。
- 東京等との行き来をする「Oターン」のような関係を保ち、学びを仕事や新産業に繋げるべき。

05　施設に加えて「まちの回遊」へ

- 新幹線で来やすい好立地を生かし、遠方からも来訪を促せる集客拠点が必要。
- クロサキメイト跡は、黒崎の大きな課題と認識。土地が大きく、相当な規模の生活圏を形成できる可能性があり、起爆剤となることを期待している。
- 小倉も黒崎も、投資したいと思うような、歩きたくなるまちの雰囲気をつくるところから始めた方が良い。
- 歩きやすいまちづくりに向けては、夏季の歩行を考え、木陰、ベンチ、休憩場所をセットで整えるべき。



市民意見（アンケート、ワークショップ）

市民が思い描く「豊かさ」を、都市の将来像の議論につなぐ。

10月～11月にかけて、アンケートやワークショップにより、意見・アイデアを集めた。

＜アンケート＞		
・市民アンケート	10月1日～31日	約 1,700名
・TGC北九州 来場者アンケート	10月10日	約 1,000名
・街頭アンケート	10月24日～25日	約 3,000名
＜ワークショップ＞		
・働く女性	10月20日	15名
・大学生	10月22日	約 50名
・若者（市内/東京在住）	10月28日/11月6日	約 30名
・地域（小倉/黒崎）	11月4日	約 40名
・Z世代課パートナーズ	11月8日	22名

※その他、各種講演にて北九州2043を幅広く周知

市民アンケートでは、「まちのにぎわい・魅力」を求める声が多数。

10月1日～31日に実施した「未来の北九州市に必要な体験・機能」に関するアンケートには、約1,700名の方が回答。
サービス産業の充実をはじめとする、まちのにぎわい・魅力の創出を期待する声が多く集まった。

小倉 Bay (n=1,737)	小倉 City (n=1,736)	小倉 River (n=1,725)	黒崎（暮らし） (n=1,711)	黒崎（ウォーカブル） (n=1,712)
1位 ライブ・フェス	1位 楽しく歩いて巡れる	1位 水辺や緑でリラックス	1位 生活が楽しくなる店舗・施設	1位 魅力的な店舗・飲食店
996人 | 57.3%	1,128人 | 65.0%	1,180人 | 68.4%	1,057人 | 61.8%	1,032人 | 60.3%
2位 ナイトイベント	2位 カフェ・ラウンジ	2位 カフェ・テラス	2位 緑豊かなまち並み	2位 子どもの公園・広場
808人 | 46.5%	991人 | 57.1%	1,024人 | 59.4%	857人 | 50.1%	943人 | 55.1%
3位 海・水辺の癒し	3位 新しい・個性的なショップ	3位 散策・ウォーキング	3位 子育てしやすい環境	3位 ベンチ・木陰
799人 | 46.0%	908人 | 52.3%	826人 | 47.9%	849人 | 49.6%	903人 | 52.7%

アンケート回答者の属性（N＝1746人）

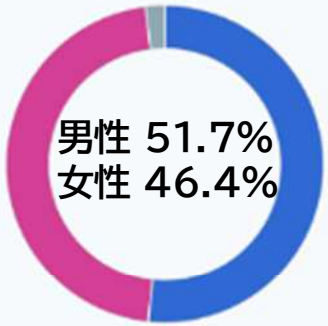
01 年代別

19 歳以下の回答が最多



20 代以下 914 人（52.3%）

02 性別



男性	902 人	51.7%
女性	810 人	46.4%
回答しない	34 人	1.9%

03 居住地



北九州市内	1,409 人	80.7%
市外（福岡県内）	256 人	14.7%
福岡県以外	79 人	4.5%
海外	2 人	0.1%

ワークショップで見えてきたことは、「まちの将来への期待」。



若者ワークショップ



街頭アンケート


地域ワークショップ


学生ワークショップ



働く女性とのワークショップ

ワークショップで出た意見

01 まちづくりのあり方について

・将来を担う子ども達のために投資すべき
・地元の人々の参加が必要
・歴史を大切にしたい
・あさの汐風公園とその周辺を有効活用
・メイト跡は企業系のコンテンツや実証実験の場に

02 日常にワクワクと彩りがあるまち

・北九州でイベント増やしてほしい
（ライブ、スポーツなど）
・1日家族（子連れ）で過ごせる場所がほしい
・仕事終わり、特に目的が無くても女性が立ち寄れる場所がほしい
・ビジネスホテル以外のホテルが増えてほしい

03 便利さと心地よさが両立するまち

・大きな窓から自然を感じられる空間で仕事したい
・ベンチとか休めるスペースがほしい
・インバウンド目線で、小倉はWi-Fiや通訳機能がどこでも使えるまちとなると強いと思う
・目的地以外にも足が向くには、ウォーカブルなまちと小型モビリティが必須

04 誰もが安心して暮らせるまち

・介護の現場でフィジカルAIの導入があるとよい
・フィジカルAIで自分の時間を作れたらよい
・子供の見守りロボットがあるとよい
・子育てしやすい環境が大事
・子供、若者、高齢者などが交流できる場所が大事

各ワークショップの主な意見①

＜若者ワークショップ① 北九州在住者＞



- 就職先として選ばれるまちへ（エンタメ・アニメの会社増）
- ウォーカブルなまちと小型モビリティが必須
- 将来を担う子供たちのために投資すべき
- メイト跡は企業系コンテンツや実証実験の場に
- フィジカルAIやヒューマノイドが困った人を検知して
  サポートみたいなこと も実現できると思う

まちの可能性をアクションにつなげる
実践的で建設的な意見交換が行われた

＜若者ワークショップ② 北九州出身東京在住者＞



・北九州は、人の温かさが段違い。この強みを生かすべき。
・完成されたまちは、面白くない。自分たちが介入できる、
チャレンジできる、そんな関わり代のあるまちでいてほしい。
・小倉のまちの入口がわかりにくい、動線の改善は必要では。
・「どんなまちになったら嫌か」という逆算で将来のまちに
必要なことを考えることも大切だと思う。

若者目線で「どんな北九州市なら帰りたいか」
北九州市の強みと改善点について意見交換した

各ワークショップの主な意見②

＜Z世代ワークショップ＞



・Bayエリアは、ポップカルチャーの中心に
・様々な主体が参画する意思決定機関を作るなど、スピード感をもって事業推進する体制づくりが大切だと思う
・クロサキメイト跡は、産官民学が集積するスマートビルに
・子育て環境（教育や安全性）の充実が大切だと思う

未来のまちの姿と、その実現に向けた
具体的な仕組みの両面からの意見をいただいた

＜街頭アンケート＞





・「ライブ・フェス会場」を求める声意見が多数
・「水辺・癒しの空間」、「ナイトイベント」など、エリアの価値向上につながる体験・コンテンツを求める声も多い

・その他「大人も子どもも1日過ごせるまちがいい」、「ライブ会場に併せて飲食や休憩の場も充実させてほしい」、「ナイトマーケットなど夜まで安全に遊べる場所を」といったご意見もいただいた。

各ワークショップの主な意見③

＜女性ワークショップ＞



- 推し活やライブが楽しめるエンタメを充実してほしい
- 子どもと一緒に1日中楽しめるような場所が欲しい
- 女性が安心して歩ける、明るく安全な環境が欲しい
- 開放的で快適に働けるワークスペースが欲しい
- 技術の力で仕事や家事の負担が少なくなるといい

生活の質と仕事の効率化に向けた
ポジティブな議論が展開された

＜学生ワークショップ＞



- ライブ会場や劇場などを増やし、日常をもっと文化的に
- 作業しやすいカフェやフリースペースがもっと欲しい
- AIで労働者の身体のケア、ドローンで荷物配送
- 自然の中でリフレッシュできる公園や安心して休める環境が必要

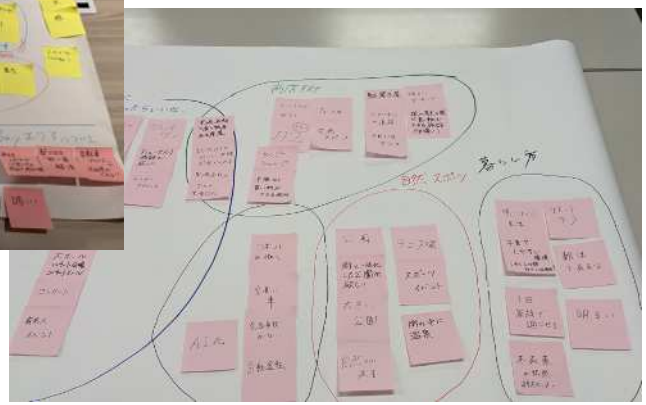
余暇時間の充実に向けた
学生ならではの意見・アイデアを多くいただいた

各ワークショップの主な意見④

＜地域ワークショップ＞







＜小倉＞

- エリアをつないで、自由に回遊できるように移動やサービスを充実させてほしい
- 小倉らしさ、食文化を含む文化や伝統を生かしてほしい
- あさの汐風公園とその周辺を有効活用してほしい
- Riverエリアにお城が見えるグランピングがあるとよい

地域資源を生かして、まちをめぐる楽しさや
多様な過ごし方についてのアイデアをいただいた

＜黒崎＞

- 生活コンテンツ（スーパー、書店など）や若者が訪れるコンテンツ（エンタメ・映画館など）が欲しい
- 子育て環境を充実してほしい
- 公園や緑など、安心して遊べる・憩える空間が欲しい
- 学校や専門学校があるとよい
- クロサキメイト跡は、人の集まる施設として再生してほしい

生活に関する意見やアイデアのほか
クロサキメイト跡再生に期待する声をいただいた

「北九州2043」に関連する直近の動き

地域未来戦略

令和8年（2026年）7月31日、北九州市が策定した「フィジカルAI分野における地域産業クラスター計画」が、「地域未来戦略に関する関係副大臣等会議（第5回）」で、**国の「地域未来戦略」に基づく、先陣を切る第1弾の計画として認定されました。**

第1弾として認定された「地域産業クラスター計画」は6件で、市単独で策定した計画は北九州市のみとなっています。

北九州市は、フィジカルAIの社会実装を起点として、研究開発、事業化及び産業集積へつなげる「社会実装起点型フィジカルAI産業創出モデル」の確立を目指します。

令和8年（2026年）8月21日には、フィジカルAIの社会実装を計画的かつ強力に推進するため、「北九州市フィジカルAI共生都市戦略」を策定しており、日本を代表するフィジカルAIクラスターの形成とともに、暮らしの質やまちの魅力の向上を目指しています。

1．産業領域

フィジカルAI産業領域

※ 該当する業種
金属製品製造業、生産用機械器具製造業、電気機械器具製造業、情報サービス業、インターネット附随サービス業など

2．対象エリア

学術研究都市と設計・製造機能が集積する特に八幡西区及び若松区

- ✓ 研究開発から実証、社会実装、事業化、産業集積に至るまでの一連のプロセスを、単一の都市内で完結させることができる全国でも有数の地域
- ✓ 社会実装を起点としたデータ循環が成立する
- ✓ フィジカルAIの需要側市場が地域内に存在する
- ✓ 供給側産業の集積と成長ポテンシャルを有している

3．目指す姿（目標）

課題の解決

新たな付加価値創出・雇用拡大

KGI ①	官民設備投資額 2035年度累積6,000億円 目標年度における投資額600億円
KGI ②	付加価値増加額（2022年度比） 2035年度734億円増加
KGI ③	産業人材育成数（10年累計） 2035年度20,000名

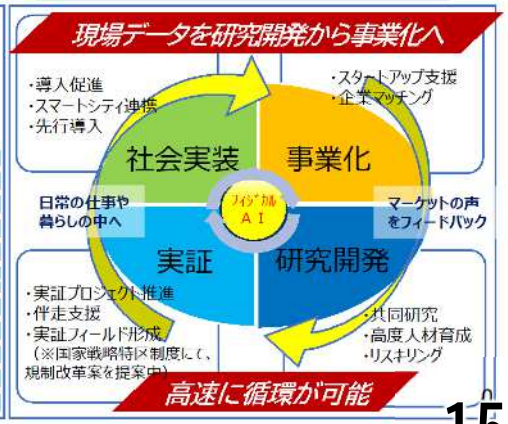
4．勝ち筋

「社会実装起点型フィジカルAI産業創出モデル」を確立

① 社会実装の先行都市化
② 社会実装を起点とした産業集積の形成

フィジカルAI サンドボックス 実証フィールドの提供 実装の伴走支援	フィジカルAI 社会実装LABO 先端技術のショールーム 実装型SIerの育成
匠プロジェクト 熟練技術者の技をフィジカルAIで継承	フィジカルAI フレンドリータウンPJ リスキリング、次世代教育体験の場づくり

5．政策手段



出典：北九州市地域産業クラスター計画　概要

副首都構想　副首都整備法の概要及び北九州市の取組（国家社会機能継続性確保施策及び副首都の整備に係る施策の推進に係る法律）

法律の概要

1. 大規模災害に備え
首都中枢機能をバックアップ

2. 東京一極集中を是正
多極分散型経済圏を形成

3. 要件を満たす道府県を
内閣総理大臣が「副首都」に指定

4. 国が整備を推進
国機関・交通基盤・産業拠点
規制緩和・財政／税制措置 等

2026年7月24日　副首都整備法 成立

北九州市の取組から「副首都・福岡県」へ

2023年11月
北九州市
「バックアップ首都構想」
戦略策定
災害に強い基盤・インフラを生かし、日本を支える都市へ

2026年6月～7月
県内経済3団体から要望
副首都構想の実現を要望
経済3団体
・福岡県経済連合会
・福岡県商工会議所連合会
・福岡県中小企業団体中央会

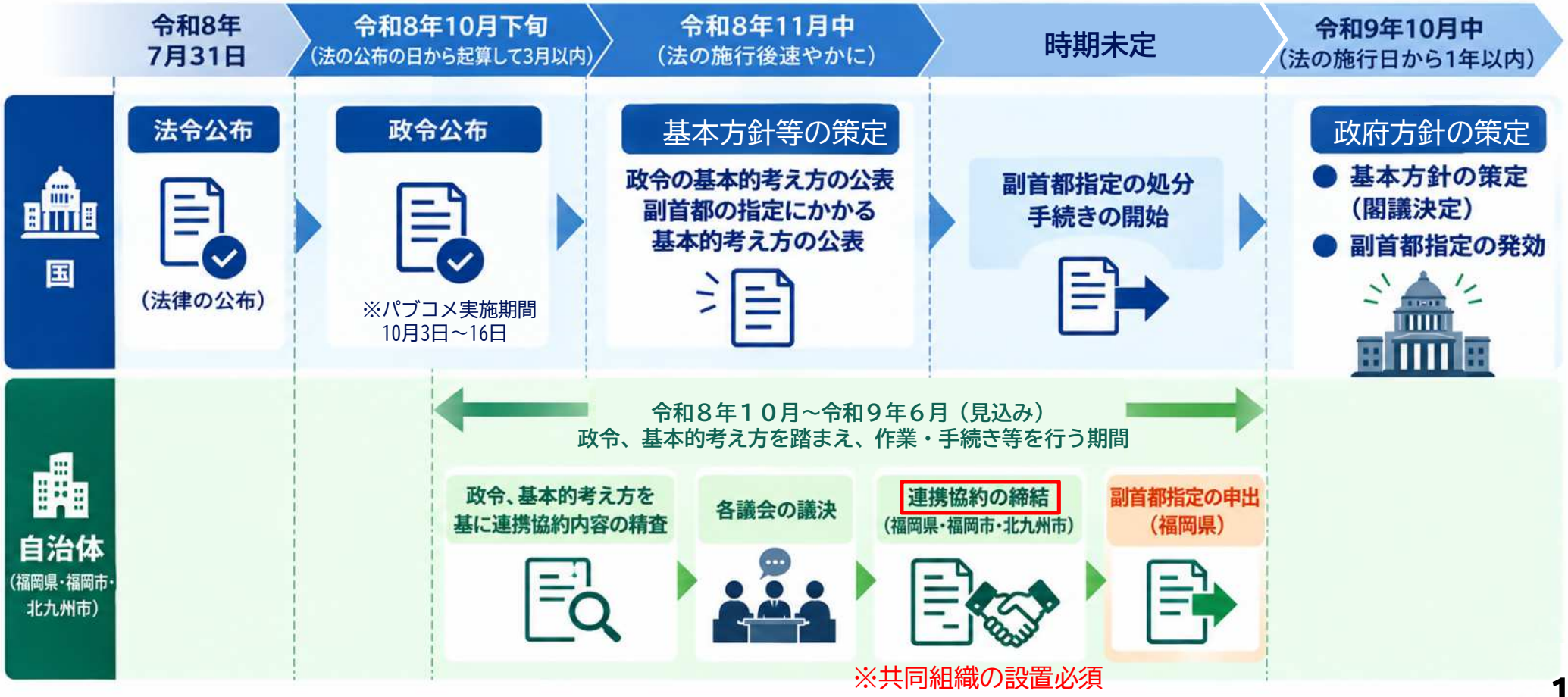
2026年7月24日
副首都整備法成立

2026年8月7日
福岡県・福岡市・北九州市
「副首都指定の実現に向けた連絡会議」開催
福岡県　福岡市　北九州市

2026年10月5日
福岡県知事・福岡市長・北九州市長が国へ「副首都・福岡県」の実現を要望
福岡県
福岡市
北九州市
国

北九州市独自の「バックアップ首都」構想から、県・両政令市が一体となった「副首都・福岡県」実現の取組へ

副首都構想　副首都指定に向けたスケジュール



本日のテーマ

本日のテーマ

テーマ 01　2043年に、北九州市はどんな都市でありたいか

テーマ 02　小倉・黒崎の役割や期待されるプロジェクトは何か

テーマ 03　市民・企業が、一緒になってどのようにまちづくりを進めていくか

北九州市の変遷～時代の最前線で常に新しいことに挑戦し、多くの困難を乗り越えてきたドラマチックのまち～



日本製鉄株式会社　九州製鉄所　所蔵

1901
官営八幡製鐵所

1915
安川電機製作所

1917東洋陶器



1963北九州市発足



2011
環境未来都市に選定

2022
脱炭素先行地域に選定

『ものづくりのまち』として
日本の高度成長期をけん引

当時、世界で類を見ない五市対等合併により、九州初の
『百万都市』、『政令指定都市』として、北九州市が誕生

1900～ → **1950～** → **2000～**

新たなドラマのスタート

●人口急増





▼激甚な公害が発生
「七色の煙」や「死の海」

▼「オイルショック後の鉄冷え」

●エコタウンプロジェクト
【環境産業】

●学術研究都市【新産業】
（自動車・半導体等）

北九州市の変遷～時代の最前線で常に新しいことに挑戦し、多くの困難を乗り越えてきたドラマチックのまち～

北九州市はこれまで、市民の力で困難を乗り越え、発展させてきた

ピンチ

日本の高度経済成長をけん引してきた工業地帯として発展する一方で、激甚な公害が発生。
「七色の煙」や「死の海」と評された。





克服

婦人会が立ち上がり、それを契機に企業と行政・研究機関も一体となって公害を克服した。





チャンス

環境産業成長、環境国際協力などの実績の下、「環境先進都市」として高い評価を受ける。
さらに経済面や社会面を含めた「ＳＤＧｓ未来都市」へ。

克服の原動力となった「市民力」や「産学官民連携の力」は、現在のまちづくりにも引き継がれている。

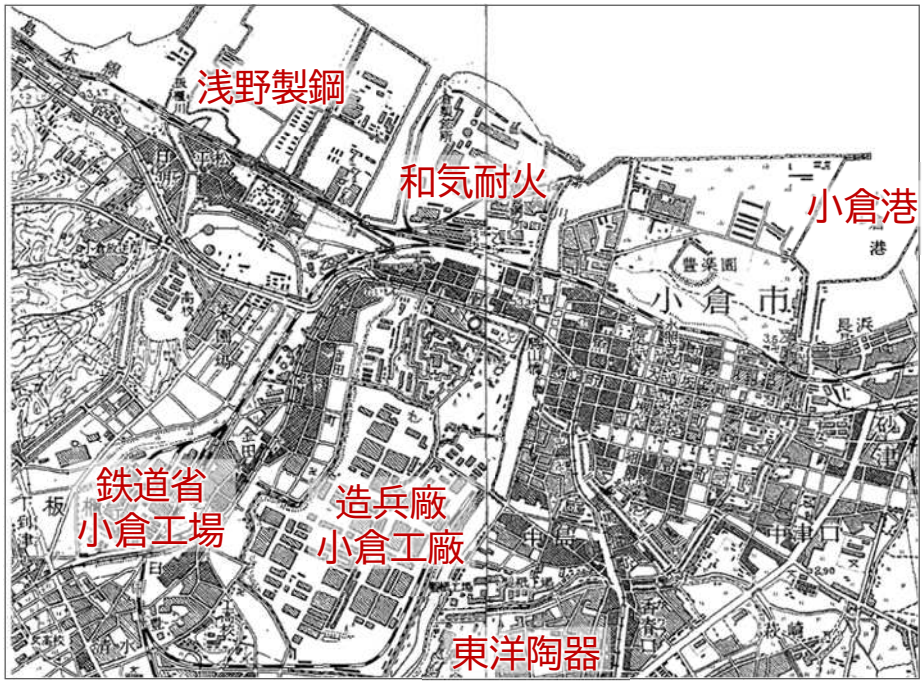
小倉の変遷



出典：北九州市立自然史・歴史博物館所蔵（小倉藩士屋敷絵図）

【江戸時代】城下町（五街道の起点）

・約400年前、小倉城を中心とした城下町として発展。
・九州各地へ向かう五街道の起点となり、
　ヒト、モノ、情報が行き交う交通の要衝として繁栄。
・歩いて回れる城下町の構造は、現代にもまちの原型
　として残っている。

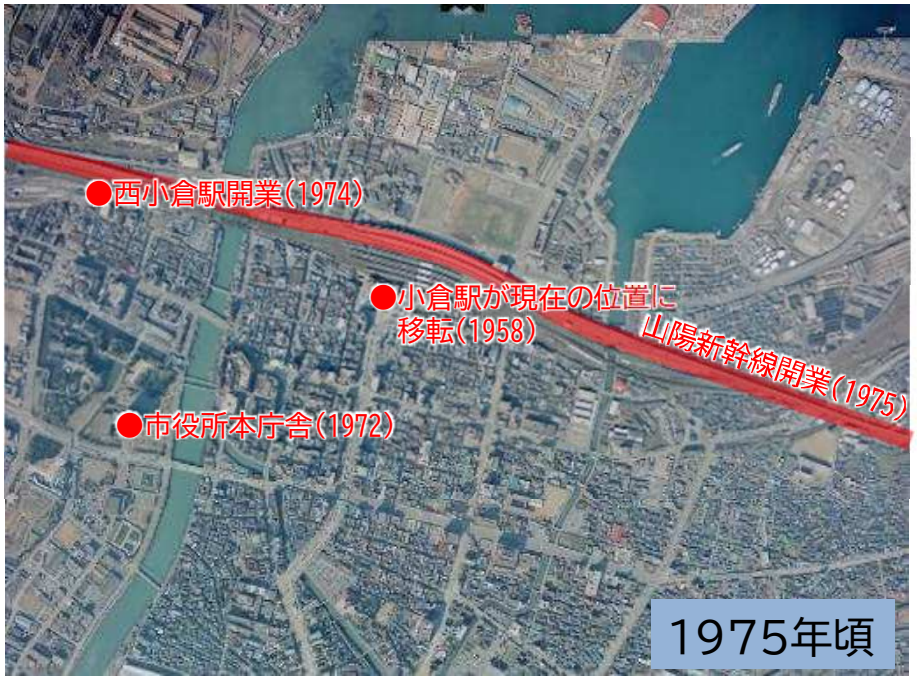


出典：国土地理院（昭和25年小倉市）

【明治～昭和初期】工業都市

・近代化の進展とともに、市街地周辺に工場が立地。
・北側の海を埋め立て、臨海部の工業化とともに
　都市を拡大してきた。

小倉の変遷



出典:国土地理院ウェブサイト



出典:H7北九州市基礎調査業務

【戦後～昭和40年代】九州の玄関口

・小倉駅が現在の位置に移転したことで、人の流れが変化し、商業・業務機能が集積。
・山陽新幹線の開業に伴い、本州と九州を結ぶ交通結節機能が強化され、北部九州の広域的な拠点都市として発展。

【昭和50年代～平成初期】商業・交流都市

・広域交通の利便性を活かし、駅北側ではMICE機能等の集積がはじまる。
・北九州モノレールが開業し、都心部の交通利便性が向上。
・大型商業施設が開業し、商業・業務機能がさらに集積。

小倉の変遷



出典:北九州市 庁内WebGIS(H29航空写真)

【平成10年代～】都市の概成

・小倉駅のリニューアルやモノレール乗入れにより、
交通結節機能がさらに充実。

・駅北側では集客機能が強化されるとともに、
大規模商業施設の立地も進展。

・公共主導により都市が概成する一方で、
老朽化した建物の更新や民間投資の促進が課題。

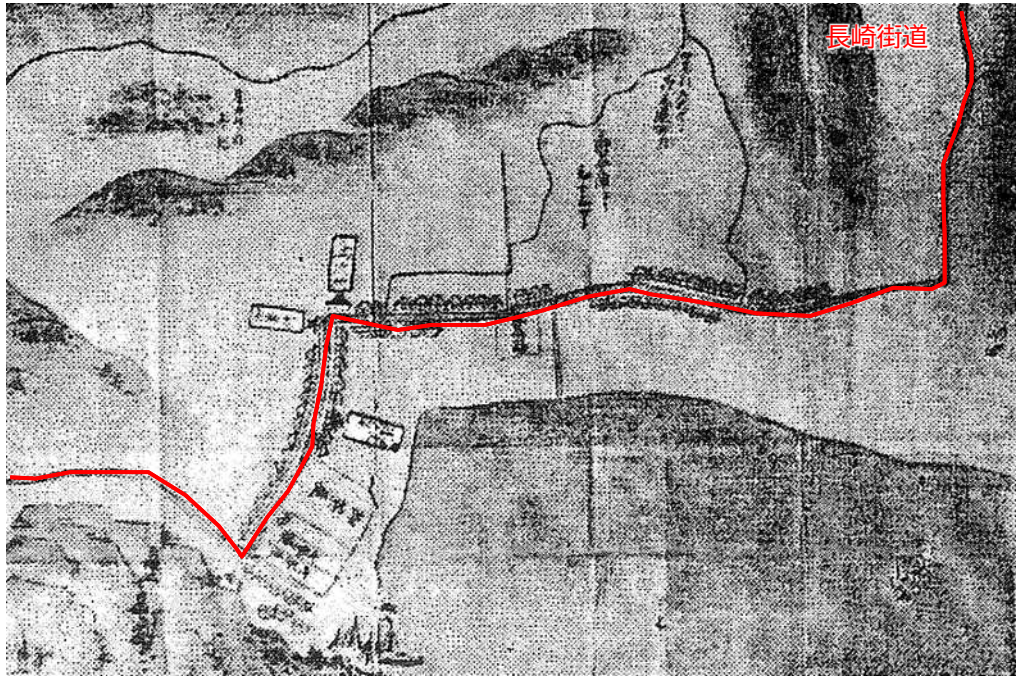


【現在】民間開発プロジェクト始動の兆し

・まちなかにIT企業の誘致が進展する中、
「BIZIA小倉」「小倉京町センタービル」をはじめ、
まちなかで民間開発プロジェクトが動き始めた。

・民間投資を呼び込み、都市機能の更新・高度化を
進めることで、新たな人の流れや経済活動を創出。

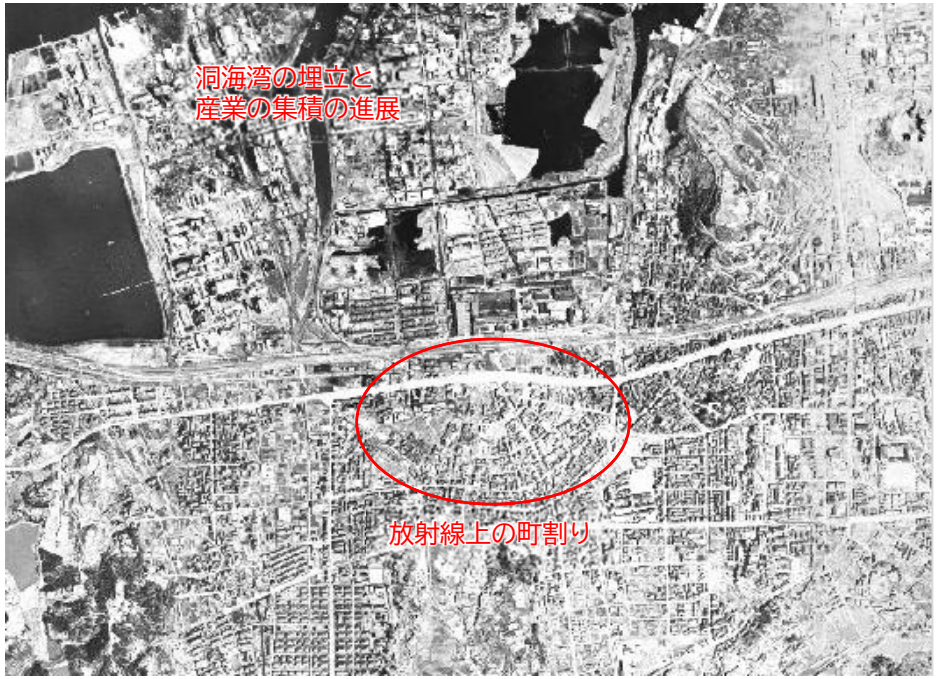
黒崎の変遷



出典：黒崎学校九十年史

【江戸時代】長崎街道の宿場町

・筑前六宿の一つであり、上方へ向かう渡海船が
発着する港もあったことから、交通の要衝として、
人・もの・文化が集まり発展してきた。



出典：国土地理院

【明治～昭和初期】産業を支えるまち

・官営八幡製鐵所の操業を機に世界をリードする技術
や産業が集積。
・九州鉄道、路面電車が開通。
・土地区画整理事業により、放射線状の町割りが誕生。
・日本の近代化を支える工業都市として発展した。

黒崎の変遷



【昭和中期～平成初期】商業の拠点

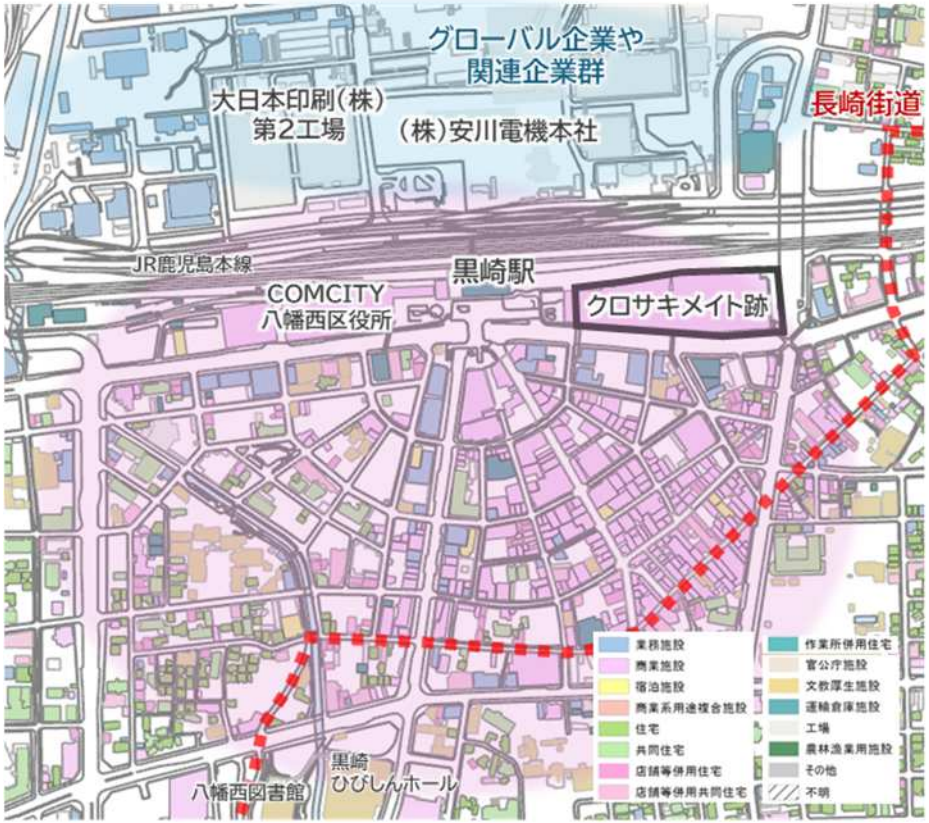
・井筒屋黒崎店が進出し、ユニード黒崎店、長崎屋黒崎店など、大型店舗が次々と進出。
・再開発事業によりクロサキメイトビルが誕生し、黒崎そごうが進出。
・工場群を支える多くの労働者とその家族を基盤に商業拠点として発展した。



【平成中期～】商業拠点としてのプレゼンス低下

・周辺での郊外型の大規模店舗の増加など、商業環境が大きく変化し、大規模店舗の閉店や商店街のシャッター街化が進み、まちの活力が失われていった。

黒崎の変遷





【現在】グローバル企業群と利便性の高い生活空間が近接するまち

・黒崎エリアの生活利便性が再認識されたことで、地区内のマンション建設が好調に推移し人口が増加。

・駅北側の企業群では、フィジカルAIなど先端産業への投資が進み、周辺地区では、響灘地区におけるGX関連産業の集積や、学術研究都市を中心としてDX・Ai分野の研究拠点化など投資が進展している。

海外事例

地区名（国・都市）	概要	参考とするエリア等
①タイムズスクエア地区 （アメリカ　ニューヨーク）	車優先だった街路を歩行・滞在空間へ転換。混雑の緩和、交通事故の減少、来訪者の増加、不動産価値の上昇など様々な効果をもたらした	小倉、黒崎：ウォーカブル
②亜洲新湾区（アジア・ニューベイ地区） **（台湾　高雄）**	伝統的な工業港湾都市からサービス・観光都市へ転換 「アジア・ニューベイエリア」プロジェクトを推進	小倉：Bayエリア 遊休施設の段階的活用 民間投資誘導
③グリニッジ・ペニンシュラ地区 （イギリス　ロンドン）	エンタメ施設をアンカーに、旧ガス工場跡地を住宅・オフィス・公共空間が共存する複合市街地へ長期的に転換	小倉：Bayエリア、Riverエリア ベニューと周辺開発
④アバンドイバラ地区 （スペイン　ビルバオ）	脱工業化で衰退したネルビオン川沿いの工業地帯を美術館を核に、文化のまちへ再生した水辺の地区へ再生	小倉：Bayエリア、Riverエリア 水辺と都心の一体再編 事業推進体制
⑤カーディフ・ベイ地区 （イギリス　ウェールズ）	衰退した港湾地区を、住宅・業務・商業・余暇等の複合地区へ転換	小倉：Bayエリア、Riverエリア 都心との接続 長期的な運営
⑥プナウィティ地区 （タイ バンコク）	下町エリアが「True Digital Park」の開発を契機に最先端スマートシティに変貌	黒崎 職住・都市機能の近接 生活と技術の融合
⑦ヘーゼルウッド地区 （アメリカ　ピッツバーグ）	製鉄所跡地を、先端製造業・ロボティクス等の研究開発拠点へ転換	黒崎 産学連携 産業高度化
⑧コークタウン地区 （アメリカ　デトロイト）	旧駅舎の再生を契機に、次世代モビリティの開発・実証拠点を形成 自動車産業の蓄積を新たな技術・事業へつなげる	黒崎 地域企業の参画 暮らしの実証

タイムズスクエア地区（アメリカ　ニューヨーク）

車優先だった街路を半年の社会実験で人が主役の広場に変えた ニューヨーク・タイムズスクエアの挑戦

2007年当時、ニューヨークでは地域住民の85%は公共交通、徒歩、自転車によって移動していた。しかし、街路空間は残りの15%にあたる車によって“占領”されていた。2009年に車道を閉鎖し、効果がなければ元に戻す条件で社会実験を実施。綿密な測定の結果、歩行者数35%増、歩行中の負傷者35%減、CO2 40%減等の効果を確認して恒久化された。不動産価値は3倍、1日10万人が訪れ、ハイラインやCityBenchプロジェクトと相まって歩く体験が面として広がった。

【特徴】

・小さな実験から始める　　・成果を指標で示し、恒久化
・点から線、面へと広げる　・市民参加



タイムズスクエアの歩行者天国

Global Designing Cities Initiative HPより

ハイライン



ハイライン公式HPより

CityBenchプロジェクト



ベンチを設置したい場所を市民から募集

ニューヨーク市HPより

タイムズスクエアのブロードウェイ:改良前(左)と改良後(右)



Flickr画像 © NYCDOT

亜洲新湾区（アジア・ニューベイ地区）（台湾　高雄）

伝統的な工業港湾都市からサービス・観光都市へ転換
「アジア・ニューベイエリア」プロジェクトを推進

高雄港周辺の旧港湾・工業系土地を展示、図書館、音楽、クルーズ、LRT、スマート産業拠点などへ転換する大規模ウォーターフロント再編。中央政府と高雄市が連携し、高雄展覧館、高雄市立図書館総館、高雄流行音楽中心、高雄港埠旅運中心、水岸LRTなどを核に、港湾都市の産業転換と都市再生を進めてきた。2021年以降は「5G AIoT」や「亜洲新湾区2.0」としてスマート技術産業拠点化も進められている。

【特徴】
- 産業遺産（旧倉庫群）の再生　・国際級の大型文化施設群の集積
- 親水空間の整備　・文化・観光・テクノロジー産業の複合化



高雄流行音樂中心公式HPより



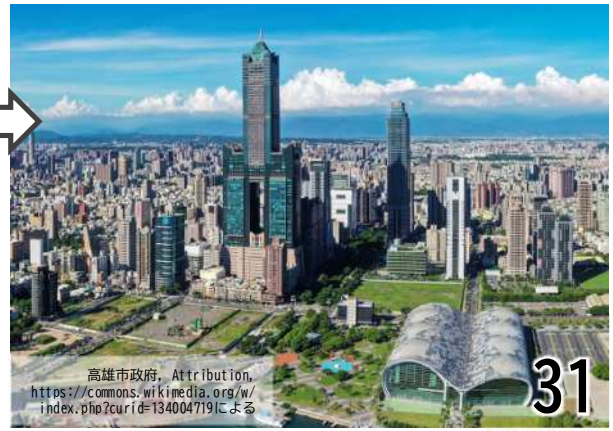
Google Mapより

以前の高雄港には多くの貯蔵タンクがあった



SETN三立新聞網HPより

再生後（右下は国際会議場）



Wikipediaより

亜洲新湾区（アジア・ニューベイ地区）（台湾　高雄）

駁二芸術特区（アジア・ニューベイ地区内）

高雄港の倉庫群を再生したアート・文化創造拠点。展示、イベント、パブリックアート、マーケット、サイクリング動線などが混在するアジア・ニューベイ地区内のエリア。高雄市の文化政策・港湾空間再生の文脈で整備・運営。おしゃれなレストランや雑貨店も多く、観光客や地元市民で賑わう人気の観光地。旧西臨港線は自転車道としても活用されている。



高雄市政府観光局HPより









すべて高雄市政府観光局HPより

グリニッジ・ペニンシュラ地区（イギリス　ロンドン）

公共施設を民間が再開発し、リブランディング。
世界で最も高い稼働率のアリーナとして
多機能複合型のベニューを実現

約120haの旧工業地における官民連携のブラウンフィールド再生の中核施設で、単発利用に終わったミレニアムドームを常設のアリーナへ転換。アリーナを核に、飲食・商業・映画館・ホテルなどを集積させ、多機能複合型ベニューを実現した。

さらに、水辺・アート・緑・憩いの空間を融合した歩行者空間「The Tide」を整備し、滞在型のウォーカブル空間を創出している。地区の完成予定は、2043年。

【特徴】

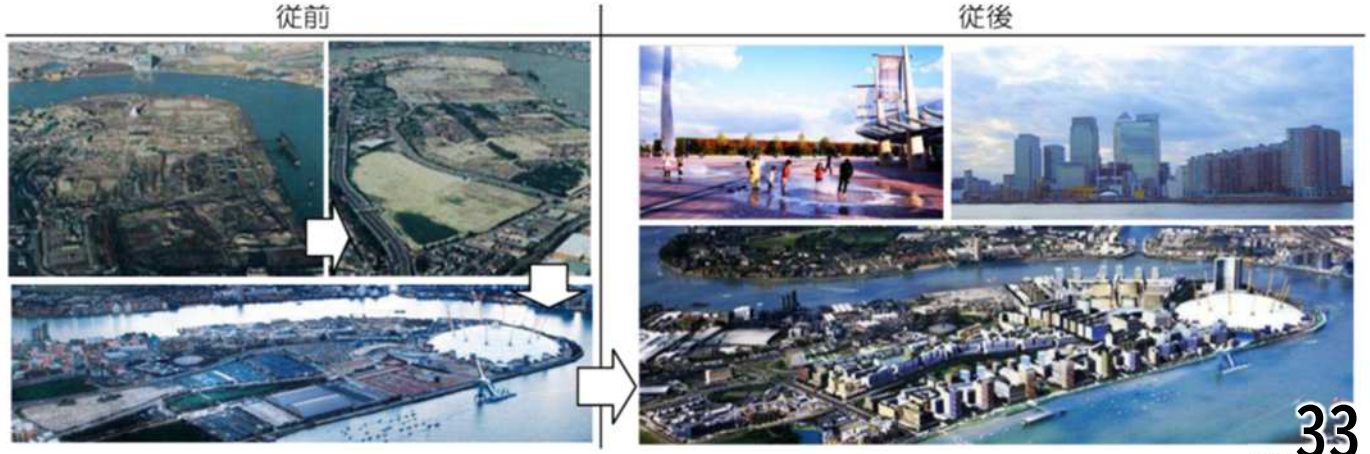
・エンタメ施設を核としたエリア価値向上
・公共交通・公共空間の充実
・クリエイティブ産業・大学の誘致
・住宅供給



02アリーナ公式HPより



Greenwich Peninsula／KNIGHT DRAGON　HPより



国交省／土地利用の転換の機会を捉えた都市再生推進手法に関する検討調査報告書より

アバンドイバラ地区（スペイン　ビルバオ）

脱工業化で衰退したネルビオン川沿いの工業地帯を
美術館を核に、文化のまちへ再生した水辺の再開発地区

1997年のグッゲンハイム美術館開館を契機に、川沿いの造船所と鉄道操車場の跡地約35haは、美術館・会議場・遊歩道が連なる複合市街地へと生まれ変わった。公共空間を3分の2確保する段階的な用地開発を担ったのは政府系出資会社のビルバオ・リア2000。狙いは、製鉄・造船の衰退で失った雇用と人口を取り戻し、経済を文化とサービスへ転換すること。文化を成長の原動力に据えた長期戦略が年間100万人を呼ぶ街を生んだ。一方で地価上昇等のジェントリフィケーションも課題となっている。

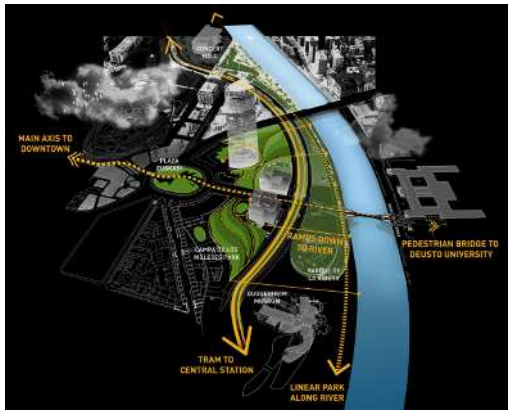


ビルバオグッゲンハイム美術館公式HPより

【特徴】
・水辺と市街地の再結合　・産業都市から文化都市（Criative City）への転換
・区画分割による段階開発（売却益を再投資）　・長期戦略と広域ガバナンス


Bilbao Ría 2000　HPより


Bilbao Ría 2000　HPより



Balmori Associates　HPより



Balmori Associates　HPより

カーディフ・ベイ地区（イギリス　ウェールズ）

石炭輸出を支えた旧港湾地区を、
商業・業務・レジャー・住宅が複合する水辺の地区へ再生

エネルギーの変革により衰退し、海に背を向けた状態であった首都を「世界に通用する海洋都市」へ転換する狙いのもと、1987年にカーディフ湾開発公社が発足し、荒廃した約1,100ヘクタールの旧港湾再生に着手。1999年完成の湾口堰が干満を遮り水辺を安定させ、公共投資で民間開発を誘導。ピアヘッド・ビル等の歴史的建造物、ミレニアム・センター、議会議事堂、商業・住宅が集積し、人々が行き交う水辺へと変貌した。

【特徴】
・住み・働き・遊ぶ環境の形成　・都心と水辺の再結合
・雇用を生む複合開発　・都市再生の聖地化



Expedia HPより

商業施設　マーメイド･キー



マーメイド・キー公式HPより

ウェールズ議会議事堂(The Senedd)


RSHP　HPより

1987年のカーディフ湾


BBC　HPより

再生後


ウェールズミレニアムセンター公式HPより

プナウィティ地区（タイ　バンコク）

下町エリアが「True Digital Park」の開発を契機に先端スマートシティに変貌

次世代産業を振興しようとするタイ政府の長期ビジョン「タイランド４．０」に基づき、鉄道駅周辺の住宅地を、デジタル産業・スタートアップ企業の集積と、住宅・商業・交流機能を備えた複合市街地へと発展させている地区。

デジタル産業やクリエイティブ産業という明確なテーマを掲げ、企業・人材を集める機能と、住宅・商業・交流機能を組み合わせている。

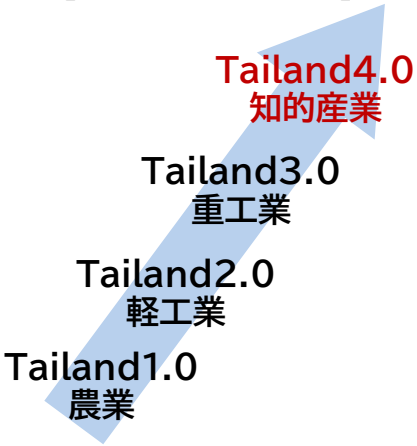
【特徴】

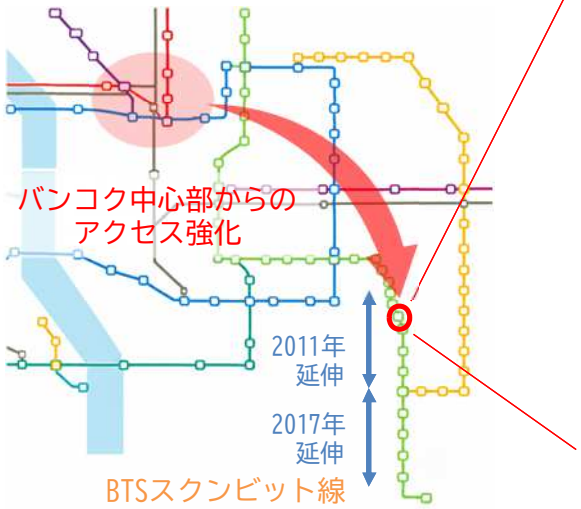
・産業を起点とした都市開発　　・民間主導による都市機能の集積
・公共交通と一体となった開発



Architects 49　HPより

【タイランド４．０】







Lydex　HPより

プナウィティ地区（タイ バンコク）
ーTrue Digital Parkー

０１｜経緯
～2010年代初頭までは、郊外の静かな住宅地であったが、BTSスクンビット線の延伸により、BTSプナウィティ駅が開業。
開発者がスポーツクラブ跡地の他、周辺の土地も追加取得して約6.9haの複合開発用地を確保したことから、単なる建築群ではなく、人々が暮らし、働き、交流するコミュニティをつくることを重視した開発が可能となる。
2019年前後に、大型複合開発「Whizdom 101（ウィズダム101）」や、その中核となるスタートアップ・IT・イノベーション拠点「True Digital Park」がオープン。デジタルノマドやIT系ビジネスパーソン、起業家が集まる先端エリアに変貌。

０２｜コンセプト
「One Roof, All Possibilities」をコンセプトに、単なるオフィス街ではなく24時間稼働する生活圏としての都市機能を果たしている。

０３｜導入機能
BTSプンナウィティ駅直結のTOD型拠点
West棟：オフィス、コワーキングスペース、ライブラリー
East棟：スーパー、レストラン、フードコート、ショップ、緑地、フィットネス

０４｜整備効果
スタートアップのほか、外資系大企業、投資家、大学・学術機関、政府機関（デジタル経済振興庁）など、5,800以上の企業や団体が入居。様々な分野のイノベーションハブとして機能している。



オフィス
横浜市アジア事務所　HPより



コンベンションホール
横浜市アジア事務所　HPより


屋上緑地
Architects 49　HPより


スカイトラック
Architects 49　HPより

ヘーゼルウッド地区（アメリカ　ピッツバーグ）

製鉄所跡地を、ロボティクス・先端製造業の研究開発拠点へ転換
研究・起業・居住・緑地が重なる複合地区へ

1998年に閉鎖したピッツバーグ最後の製鉄所J&L／LTV。2001年に財団連合アルモノが178エーカーの土地を取得し、鉄骨を残したMill 19にはカーネギーメロン大学の製造イノベーション研究所やARM研究所*が入居。2025年には実証を行うロボティクス・イノベーション・センターが開設された。周辺では住宅や河川敷緑地・スポーツフィールド、起業支援拠点ラウンドハウスの整備も進み、複合地区へ転換しつつある。

*ARM：Advanced Robotics for Manufacturing Instituteは、米国政府がサポートする『Manufacturing USA』という製造業ハブの1つで、ロボット企業、スタートアップ、大学などの225組織を会員として抱える非営利団体。



R3A Architecture　HPより

【特徴】
- 産業遺構の活用　・財団による土地の一括取得
- 研究一極ではない複合開発　・住民参画と環境配慮

ロボティクス･イノベーション･センター



ヘーゼルウッド・グリーン　HPより

ARM研究所



ARM研究所　HPより



CMU製造イノベーション研究所（MFI）HPより

ヘーゼルウッド･グリーンが完全に完成した状態のイメージ図



HAZELWOOD GREEN Preliminary Land Development Planより

コークタウン地区（アメリカ　デトロイト）

衰退の象徴となっていた旧駅舎を、未来の産業を生み出す拠点へ
次世代モビリティの開発・実証拠点を形成
自動車産業の蓄積を新たな技術・事業へつなげる

閉鎖されたMichigan Central駅をフォードが取得し、技術・文化・交流の拠点として再生。 2024年にはGoogleの若者向け教育プログラム「Code Next」が入居するなど、歴史的な建物を、企業活動と次世代の学びが接する場所へと転換している。

またデトロイト市は、Michigan Central周辺に「Transportation Innovation Zone：TIZ」を設け、実証手続きを円滑化。実証中の技術が住民に共有されることも実装基盤の一部に組み込まれている。



MICHIGAN CENTRAL　HPより

【特徴】
- 廃駅を地区内外を繋ぐ結節点へ再生
- 実証と事業化を一拠点に集積
- 産業エコシステムの再構築



MICHIGAN CENTRAL　HPより



MICHIGAN CENTRAL　HPより



アクシオス・メディア社　HPより